

氏名

点数

点/100点

各論演習 7-1

問1)

次の資料により、当期末（×4年度末）の一般債権の貸倒見積高を求めなさい。

(資料)

- ① 一般債権の過去4期間における発生および過去3期間の貸倒れに関する内容は、次のとおりである。なお、一般債権の平均回収期間は1年である。

	×1年度	×2年度	×3年度	×4年度
×1年度発生債権の期末残高 (うち貸倒損失発生額)	55,000	0 (1,375)		
×2年度発生債権の期末残高 (うち貸倒損失発生額)		60,000	0 (1,560)	
×3年度発生債権の期末残高 (うち貸倒損失発生額)			43,750	0 (1,050)
×4年度発生債権の期末残高 (うち貸倒損失発生額)				60,800

- ② 貸倒実績率は、債権期末残高に対する翌期1年間（算定期間）の貸倒損失発生額の割合とする。
- ③ 当期に適用する貸倒実績率は、過去3算定年度（×1年度から×3年度）の期末残高に係る貸倒実績率の平均値とする。

解1)

当期貸倒見積高

 円

氏名

点数 点/100点

各論演習 7-2

問1)

当社（会計期間 1 年、決算日3月31日）は、当期末（×2年3月31日）に次の債権を有している。そこで、以下の設問に答えなさい。

- A社に対する売掛金 150,000円（貸倒懸念債権）
- B社に対する貸付金 500,000円（貸倒懸念債権）
- C社に対する貸付金 600,000円（破産更生債権）

【設問1】 A社に対する売掛金について、財務内容評価法による貸倒見積高を求めなさい。なお、A社からは、営業保証金100,000円を預かっており、今後のA社の支払能力を評価した結果、50%の引当金を設定する。

【設問2】 B社に対する貸付金に対して、キャッシュ・フロー見積法による貸倒見積高を求めなさい。B社の経営成績が悪化しているため、当期末の利払日後、弁済条件の緩和を行い、将来の適用利率を年利4%から年利2%に変更した。貸付条件および現価係数表は次のとおりである。割引現在価値の計算には現価係数表を使用し、円未満の端数が生じた場合は四捨五入すること。
また、翌期の×3年3月31日までに、上記以外の条件変更はなく、利息も約定どおり受け取った場合の×3年3月31日における貸倒引当金に係る仕訳を示しなさい。

- (貸付条件)
 貸付高 500,000円
 返済期日 ×5年3月31日（貸付日×1年4月1日）
 利払日 毎年3月31日
 (現価係数表)

	2%	3%	4%
1年	0.9804	0.9709	0.9615
2年	0.9612	0.9426	0.9246
3年	0.9423	0.9151	0.8890

【設問3】 C社に対する貸付金に対して貸倒見積高を求めなさい。C社は、当期末に破産した。C社に対する貸付金には、一切担保や保証による回収見込みはない。

解1)

【設問1】 円

【設問2】 円

借方		貸方	
勘定科目	金額 (単位: 円)	勘定科目	金額 (単位: 円)

【設問3】 円

氏名

点数 点/100点

各論演習 7-3

問1)

次の資料により、(A) 当期（会計期間1年、×2年3月31日決算）の損益計算書（一部）および貸借対照表（一部）を作成するとともに、(B)長期貸付金に対する貸倒引当金について翌期に必要な仕訳を示しなさい。

(資料1) 決算整理前残高試算表（一部）

決算整理前残高試算表		(単位：円)	
×2年3月31日			
売掛金	140,000	仮受金	400
短期貸付金	20,000	貸倒引当金	600
長期貸付金	20,000	受取利息	1,800

(資料2) 決算整理事項等

- ① 前期に貸倒れとして処理していた売掛金400円を当期中に回収し、仮受金として処理している。
- ② 売掛金および短期貸付金は、すべて一般債権であり、貸倒実績率2%にもとづいて貸倒見積高を計算し、正味の繰入額は設定対象債権の割合に応じて販売費及び一般管理費と営業外費用に配分する。
- ③ 長期貸付金は、×1年4月1日にA社に対して期間5年、利率年3%、利払日毎年3月31日の条件で貸し付けたものであるが、当期末の利払日後にA社の経営成績が悪化したことにより、貸付条件を緩和し、今後は利払いを免除することとした。この長期貸付金は、貸倒懸念債権に該当し、キャッシュ・フロー見積法により貸倒見積高を計算する。なお、計算上、円未満の端数が生じたときは四捨五入すること。

解1)

(A) 損益計算書（一部）および貸借対照表（一部）
(単位：円)

損益計算書	
自×1年4月1日 至×2年3月31日	
Ⅲ 販売費及び一般管理費	
()	
Ⅳ 営業外収益	
()	
()	
Ⅴ 営業外費用	
()	

貸借対照表	
×2年3月31日現在	
Ⅰ 流動資産	
売掛金	
短期貸付金	
貸倒引当金	
Ⅱ 固定資産	
...	
3.投資その他の資産	
長期貸付金	
貸倒引当金	

(B) 翌期の仕訳

借方		貸方	
勘定科目	金額 (単位：円)	勘定科目	金額 (単位：円)

氏名

点数 点/100点

各論演習 7-4

問1)

当期が×2年4月1日から×3年3月31日の当社について、次の資料をもとに、損益計算書（一部）を作成しなさい。

(資料1) 決算整理前残高試算表（一部）

決算整理前残高試算表		×3年3月31日		(単位：千円)
売掛金	50,000	貸倒引当金	3,400	
短期貸付金	50,000	仮受金	700	
貸倒損失	4,400			

(資料2) 決算整理事項等

- ① 貸倒引当金3,400千円は、売掛金に対する1,400千円と短期貸付金（営業外債権）に対する2,000千円の合計金額である。
- ② 当期中に売掛金4,400千円（前期発生高1,400千円、当期発生高3,000千円）が貸し倒れ、すべて貸倒損失として処理している。
- ③ 当期末に短期貸付金4,000千円（全額当期発生高）が貸し倒れたが未処理である。
- ④ 前期に貸倒処理が済んでいる売掛金700千円について、当期に回収したが、仮受金として処理した。

解1)

損益計算書（一部） 単位：千円

損益計算書
自×2年4月1日 至×3年3月31日

Ⅲ 販売費及び一般管理費 貸倒損失	<input style="width: 100%; height: 20px;" type="text"/>
Ⅳ 営業外収益 ()	<input style="width: 100%; height: 20px;" type="text"/>
Ⅴ 営業外費用 貸倒損失	<input style="width: 100%; height: 20px;" type="text"/>

氏名	
----	--

点数	点/100点
----	--------

各論演習 7-5

問1)

当期が×3年4月1日から×4年3月31日の当社について、次の資料をもとに、(A)損益計算書（一部）および貸借対照表（一部）を作成するとともに、(B)割引手形が翌期に決済されたときの仕訳を示しなさい。

(資料1) 決算整理前残高試算表（一部）

決算整理前残高試算表		決算整理前残高試算表	
		×4年3月31日	
		(単位：千円)	
受取手形	200,000	仮受金	19,800
売掛金	100,000	貸倒引当金	4,510

(資料2) 決算整理事項等

- ① 当社保有の約束手形20,000千円（振出日：×3年3月30日、支払期日×4年6月30日）を銀行で割引き、割引料200千円を控除後の残額が当座預金に入金され、入金額を仮受金として処理している。前期末の債権残高に対して貸倒実績率2%の貸倒見積りを行い引当金を設定しているが、新たに生じた保証債務の時価も額面に対して2%を計上する。なお、保証債務費用と貸倒引当金戻入は相殺して表示する。
- ② 当期末に保有する債権のうち、売掛金7,000千円と受取手形12,000千円は、その弁済に重大な問題が生じたため、貸倒懸念債権に区分し、50%の貸倒見積りを行い、その他の債権については、貸倒実績率2%により貸倒見積りを行う。

解1)

(A) 損益計算書（一部）および貸借対照表（一部）



(単位：千円)

損益計算書
自×3年4月1日 至×4年3月31日

III	販売費及び一般管理費	⋮			
	()				[]
		⋮			
V	営業外費用				
	()				[]

貸借対照表
×4年3月31日現在

I 流動資産	I 流動負債
受取手形	()
売掛金	
貸倒引当金	

(B) 翌期の割引手形決済の仕訳

借方		貸方	
勘定科目名	金額 (千円)	勘定科目名	金額 (千円)

